

## 議事録概要

### 1 平成27年度事業について

会長 3回のイベントの参加者はリピーターが多いのか。  
事務局 イベントに当たっては野生鳥獣センターのメール会員への周知もあるためリピーターもいるが、それ以外の参加者もいる。

### 2 第3期実施計画（原案）について

会長 計画書は、様式を変えず若干の記載が変更になったものとなるが、意見があればお願いします。

高田委員 補足資料の中で「土壌改良資材（バーク堆肥、籾殻等）をすき込み・・・」は「土壌改良資材（バーク堆肥、籾殻等）のすき込み・・・」に変えたい。

会長 原案では土壌耕転を行うことを基本としているが、必ずしもそれが良いのか、植穴だけが良いのかははっきりしていない。植生の回復という観点では耕転により植生がなくなるので効果としてはプラスマイナスがある。大規模な植栽地造成は今後はないのかもしれないが、その際には全面的か部分的にあるのかを考えていくこととして、断定でない書きぶりとするということになる。

高田委員 県の森林祭は森吉では実施していないのか。

佐藤委員代理 いろいろなイベントはやっているが、森林祭は市町村が主体となって実施する。今年度は北秋田市で開催している。

高田委員 昔は県の植樹祭があったが、これが森林祭となったもの。そうしたものを森吉でできれば周知につながるのではないだろうか。

佐藤委員代理 来年度はにかほ市での実施。要望による持ち回りで実施しており、再来年度また北秋田市でといったことに関しては分からない。

会長 そうしたイベントもうまく入れていけるとよい。

星崎委員 林業大学の研修場所としての活用はどうか。

和田委員 今年度は現地見学のみであったが、実施したいと考えている。P14に更新補助の記載があるが、林縁部、特に南側牧場では稚樹が多い場所があり、そうした場所の刈りだし作業などをイメージしている。刈りだし作業自体は、剪定ばさみでボランティアでも手軽にできるので、そうした企画があってもよい。

蒔田会長 そうしたボランティア向けの支援、道具の整備も必要かもしれない。P18の維持管理のなかで苗木の下刈りについてはどうか。

和田委員 苗木に関しては、一間の段階では獣害を助長する恐れもあり、潔癖な下刈りはマイナスになると思われる。

佐々木委員 維持管理について、NPO やボランティアと書いてあるが、商工会議所の方々を連れて森吉に行っているが、広がりがない。子が来れば親もくるが、無関

	心な人にはどうしても広がらない。無料バスとか、考えて仕掛けていかないといけない。難しいと思う。
事務局	参加型については、観察会でも過去に企画をしたが申し込みがなかった。観察会でもいろんな関心を持ってもらえるような企画となっているが、無関心な層の取り込みまでは至っていない。協議会でなんども議論いただいているところではあるが、よい解決策が見いだせていない状況。
佐々木委員	予算がないこと、効率的に予算を使える組織がないこと、PR や仕掛けづくりができていないことが要因。例えば県内では古民家を活用して人が集まるような仕掛けをしているところもあり、その時は脚光をあびるが何年続くかはわからない。この再生は長期にわたるもので、見通しを立てながら途中でやめられないような仕事と覚悟が必要。厳しい組み立ても必要ではないか。
蒔田会長	具体的なアイデアとしてはあるか。
佐々木委員	基金や人の核をつくっていかなければならない。森吉でも熱心な方がいると思うし、そうした人たちに語りかけていくことが大事。今でも森吉に来る人は来るが広がりがでない。ロシアや東ヨーロッパでは、廃屋を活用した作品展示といった取組をしており、アーティストが参加している。そうしたような別の視点が必要で、総合的に家庭に持ち込めるような何かが必要。
青木委員	この事業を導入する際に、ボランティア団体の活動の場としても想定していたが、立地が悪い。都市部からの距離感も秋田からだだと2時間もかかる。植樹、育林などにボランティアを募集しても限りがある。野鳥や動物に関心のある層を取り込むなどして、野生鳥獣センターの活動とリンクしていくしかないのではないか。また、経済団体につながりのある人達に活躍してもらわないと広がらない。
蒔田委員	ここ何年かの課題である。森援隊も活動しているが、なかなか広がっていない。
村田委員	森援隊はこの会議の有志で活動しており、流木を使ったアートもここ3年ほど継続していて、作成後の展示期間もあるので今年は春に実施を考えている。その際に植樹や堆肥づくりもしている。こうした活動にも、秋田市からは遠く、地元の人達や学校関係の参加がほしい。教育委員会にお願いしたいが、学校でも学年毎に親子レクの活用なども考えられないか。行政との絡み、アプローチがほしい。
石崎代理	担当が文化なので、この場では回答できないが持ち帰って伝えたい。
村田委員	学校に話をするにしても、年度替わりの前に行っても人事異動で話が途切れたり、後に行っても昨年決まった内容で動いているのでできない、という状況で話が通らない。どこのタイミングで話をしたらいいのかわからない。PTAでも何をやればいいのかかわからないといっているところもあるので、そうしたところへの働きかけを機会があったらお願いしたい。

蒔田会長	行政でも広げられるところは広げてもらいたい。上小阿仁プロジェクトも人が入ってきており、単に距離だけではないと思う。他のイベント団体とのつながりも必要と思われる。
小笠原オブザーバー	秋田市仁別でも実施しているが、誕生の森のように記念植樹する制度は検討できないか。森吉でもお金を取って自分の木を植えてもらい、毎年、自分で下刈りなどをして管理するのともあって良いのでは。
佐々木委員	森吉では大きな問題がある。植樹した場所に標柱を立てたがクマにぼろぼろにされた。これを見てこなくなった人もいて、逆効果となることもある、
小笠原オブザーバー	標柱でなくても地図に落とすとかでもよい。
青木オブザーバー	記念植樹はどの市町村でもやっているが、やはり20～30分程度で行ける利便のよいところ。そうでないと人が来ない。
村田委員	北秋田市でもアジサイ公園でやっている。森吉でもバースデーランドとしてそうした場所はあるが、植えたいという人はなかなか来ない。メディアに伝える方法が必要。
田中委員	地元の学校コーディネーターもやっているが、中学校行事で森吉山登山や奥森吉の滝などに行っているので、そうした活動に植樹もセットできるかもしれない。学校の先生が知らないのでPRしてもらえば活用できる。
村田委員	森吉中学校では1学期の終了時にキャンプ場で泊まるのを10年ぐらい続けていた。
田中委員	場所のサイクルはあるがまだ続けている。
堀内委員	学校へのアプローチは大切。
福森委員	市町村の公民館活動への周知としてチラシを配るというのもあってよい。グループのレクリエーションのきっかけ作りにもなるので、そうした生涯学習へのアプローチも必要。アジサイ公園では低木のアジサイを植えているが、北欧の杜のように高木を植樹すると下刈りや間伐で植えた木がなくなっていく。名前をつけた木が無くなることにもつながるので、名前をつけるのは個人的には賛成しがたい。
星崎委員	単木ではなく、エリアやグループで実施するのがよいだろう。
村田委員	名前があるとやはり違う。自分の植えた木を見に来る人は確実にいる。クマについては、やられないような工夫をすればよい。
蒔田会長	行政と民間の協働とする場合、民間はPRの媒体がないことが多い。そうしたところに県、市の仲立ちをして、協働作業を発展させていくのがよい。アイデアを出してもらい、広く知らせていくことについては、これからも考えて行くこととしたい。

### 3 委員改選について

星崎委員	先ほど他の団体との横のつながりとうところで、県内でうまくやっている方を委員にするとうのはどうか。いままでの委員だけでは閉塞感を打開できないかもしれない。
事務局	そうした団体については最初から委員としてではなく、必要であればオブザーバーとして参加してもらうなどで検討していきたい。
蒔田会長	途中から追加ができるのであれば、そこで新たに委員になってもらうこととしておくのでよいと思われる。

### 4 平成28年度事業について

福森委員	事業を紹介する案内板がはがれているところがあるので、そこも直してはどうか。
事務局	検討する
佐々木委員	森林管理局で実施していた森の市はもう行わないのか。
木村代理	機構改革などもあり同じような形では実施できなくなった。28年度はイベントとして実施する予定。
佐々木委員	以前は秋田県森林組合連合会も参加しており、大盛況であった。そうしたイベントがあればよい。行政がやっていないと、報道が取り上げてくれず苦慮している。
木村代理	今年も6月にアゴラ広場で実施している。 先ほど仁別の話がでたが、国民の森も利用を促進しなければならないため、対策を講じてはいるがリピーターだけが参加するにとどまっており苦慮しているところである。
蒔田会長	9月の企画は今後どうやって進めていくのか。
事務局	まだお話を頂いたばかりで具体はこれからとなる。秋田自然保護官事務所と相談しながら企画を進めていきたい。
蒔田会長	情報を流すようお願いする。
和田委員	自然再生の全国的なトピックはないか。
堀内委員	再生事業は5年に1度の見直しとなるが、今のところは情報を持ち合わせていない。 再生事業として、エリア毎に状況を見ておく、全体がみえるような5年先を見据えたモニタリングも検討した方がよい。手を入れたところと、自然の力で進めるところがうまく区分できれば、作業をするときにも目標となりうる。
蒔田会長	全体的に把握するということだが、この場所はエリアが広大で全てみていくの

	は難しい。
佐々木員	企業へ植樹場所として働きかけていくことはできないだろうか。
堀内委員	企業との関わり合い方次第であろう。
佐々木委員	ある企業の一般のお客さん向けに、秋田に来た際になにかしらPRすることができないかと話しており、森吉での植樹活動などもしながら旅行してもらうことができるのではないかと考えている。
堀内委員	企業の場合もお客さんに来てもらって植樹するものや、企業の職員が現地に来て植えるという2つのパターンがあると思う。
佐々木委員	そうした場合でも公の土地に植えるということであれば、理解を得やすい。
堀内委員	企業にとってのメリット、関わり合いがなければ難しいのではないか。
木村代理	森林管理局でも被災地の植樹で企業とのおつきあいがあるが、かなり条件は厳しい。目立つ看板の設置が必要であったり、土地の貸付契約などもあり、森吉に適用できるかは難しいのではないか。
蒔田会長	いろいろな手を使って動かしていかなければならないだろう。土地に関しては森吉は県有地なので公ではあるので、信頼性は問題ないと思う。 9月に計画している企画については情報を流してもらい、意見を出してもらうこととしたい。